

研修主題

『振り返りを工夫して、深い学びができる児童の育成』—3つのまとめを達成する (I can. I use. I want) —

内容：第 1 回 (ホップ) 低学年ブロック代表授業について

低学年ブロック代表授業 1 年 1 組 森 永子学級 算数『いくつといくつ』

今の 1 年生の子どもたちは・・・

◎自分の意見と、同じ意見であることを判断することができる。

▲自分の意見を言うだけで、ほかの意見を聞いていない児童がいる。

1 年生の考える

「振り返りを工夫することで、深い学びができると、1 年後にこんな姿が見られたらいいな・・・」

友達の意見と自分の意見を  
比較しながら話を聞き発表することができる。

授業の視点

- 【見取る場面】 10 の構成図を理解する場面において
- 【手だて】 構成図を作りあげたり、構成のしくみを共有したりすることにより
- 【児童の姿】 10 の構成について理解することができるだろう。

授業の様子



構成図を作るための活動のようす  
「じゃんけんゲーム」を通して  
楽しく主体的に活動している。



板書のようす  
見通しをもった「めあて」と子供の  
言葉での「まとめ」。

習熟・活用の過程で  
おはじき数当てゲーム  
を通して、10 に対する  
補数を習熟した。  
(I can.)

授業の終わりに・・・  
他にも、どんな数で構  
成図ができるか教師が  
投げかけたところ、  
児童から「20 は!？」  
「100 でもできるか  
も!!」とたくさん声があ  
がった。  
(I want.)

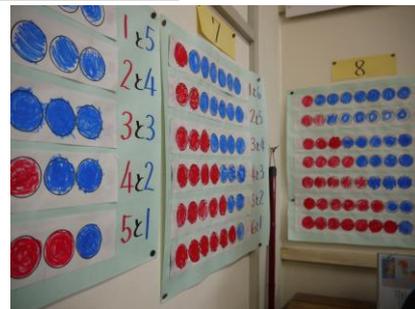
## 授業研究会での話し合い

### 研修主題をふまえた、授業のまとめ方について ○成果 ▲課題

#### 低学年ブロック班

##### 【まとめについて】

- 児童の言葉でまとめを引き出せている。
- チャレンジ問題「おはじきゲーム」では、金・銀・銅の目標レベルの設定がわかりやすい。
- I can.I want.ができていた。I want.次の授業へとつながっていた。



#### 中学年ブロック班

##### 【めあてについて】

- 前時との折合わせにより、「見通し」をもってめあてにつながっている。
- ハンドサインによる全員参加ができています。
- 発表のスキルが高い。

##### 【まとめについて】

- ▲金・銀・銅のどの段階なのかを見取るのにワークシートなどあったらよい。



#### 高学年ブロック班

##### 【十分な習熟について】

- おはじきゲームが、学習の習熟に有効だった。
- 「おはじきゲーム」は、自分の手元にあるおはじきでも数の確認ができるので、個別支援の必要も自力解決ができていた。

##### 【授業展開のよさ・今後の学習につながることにについて】

- 「じゃんけんゲーム」により子ども達にとって必要感のある課題づくりがなされていた。なにより楽しく学習している。
- 偶数の意識へのめばえや、数学的な多面的な見方の指導がなされている。
- ▲○の扱いについてはどうなっているのか気になった。



#### 【講評より】

- ・「わかる授業」を続けることで、授業規律が高まる。
- ・一人一人が「I can.」を実感することができる授業をめざす。
- ・「I want.」の扱いについて、子ども達は、目標レベルの「金」が欲しいと思うので、「頭の中でできるようにすること」でもよいのでは。そのためには、繰り返し頑張ることの必要感が迫れるのでは？

#### 【参加した職員の感想】

子ども達が主体的に取り組めるように、授業の中にたくさんの工夫が散りばめられていることがよくわかり勉強になりました。

また、学習規律に関しても、1年生の5月とは思えないくらい、しっかりと子ども達が授業と向き合っている姿がとても素晴らしかったです。（発表の仕方やハンドサインなど）

個人的には、数学的・算数的な表現の言い換え（下から1～9、上から9～1）が1年生のころからおこなわれていることに驚きながらも感動しました。